

南十字星

豊川市立南部
中学校同窓会
令和3年
3月3日発行

希望の未来をつくる人に



同窓会常任委員長 山本 一之

第七十四回卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

新型コロナウイルスに翻弄され、思うようにならないことが多かった一年でしたが、修学旅行での最高の協力と感謝の行動、体育祭でのリールダンスや凧揚げのダンス、特別な思いを込めて歌い切った合唱コンクールなど、困難を乗り越え、たいへん立派な姿を見せてくれたと聞いています。そんな皆さんに、同窓会を代表して、応援メッセージを送りたいと思います。

卒業生の皆さんは、昭和の時代を知らないどころか二十世紀の空気にもふれたことがなく、二十一世紀だけを生きてきました。私たちが子どもの頃、二十一世紀は「未来の世紀」でした。人類は月や火星に宇宙旅行をして、自動車は空を飛び回り、人型ロボットと仲良く暮らしている。誰もがそんな二十一世紀を夢見ていました。しかし、実際は、宇宙旅行は夢の世界、自動車はまだ黒いタイヤで地面を走り、ロボットと友だちになれるのはアニメの主人公くらいです。

二十一世紀に入ると、日本をはじめ世界各地で大地震が勃発し、また、洪水や自然火災などの自然災害が頻りに起こり、そして、現在、未だ収束のつかない新型コロナウイルス感染症をはじめ、深刻化する社会の分断、世界各地で起こる紛争、今や、二十一世紀に未来を描くことができなくなっています。未来は「希望」でしょうか「絶望」でしょうか。

そんな話を聞くと、「なんて未来は恐ろしい」と思いかもしれません。でも、未来には、いいところがあります。それは、「未来はつくることができる」ところです。二十一世紀に生まれた皆さんの手で、二十一世紀の希望の未来をつくっていくのです。歴史を振り返ってみれば、いつの時代にも、どこにも「未来をつくる人」がいきました。古い扉をこぎ開け、時代を少しだけ進める人がいました。皆さんも、この困難な状況の中、前を向いて挑戦し、南部中学校の新しい歴史をつくってください。これから先も、自分の可能性を信じて、前を向いて挑戦することを忘れなければ、希望の未来がやってくるはずですよ。同窓会一同、応援しています。

誓いの言葉

第七十四回卒業生 同窓会学年代表

三年五組 石黒 天悠

私たち第七十四回卒業生はこの伝統ある南部中学校同窓会に入会できることを嬉しく思います。中学校生活を通して、私たちは仲間の素晴らしさを感じることができました。それは、クラスや学年全体で一致団結した様々な行事だけでなく、あいさつや思いやりのある何気ないことから感じられました。仲間と共に様々な困難を乗り越え、喜びを分かち合ったこの三年間は、私たちにとってかけがえのないものです。私たちはそれぞれの未来に向けて立ちます。そこに何が待っているか、自分自身の努力と仲間との思い出を心の支えとして頑張ります。

母校の伝統と精神を受け継ぎ、社会へとすすんでいきます。私たちは、この南部中学校卒業生であることに自覚と誇りを持ち、母校の発展と繁栄に力を注いでいくことを約束し、誓いの言葉といたします。

「仲間との再会」

第六十九回生（二〇一六年卒）池田 昂

令和三年一月十日、私たちは成人式を迎えることができました。例年と異なり新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスクの着用と消毒、検温が必須、また二部交代制方式が予定され、直前まで開催が危ぶまれてはいましたが、特に問題も起こることなく無事に成人式を終えることができました。

式の始まる三十分前にもなると続々と新成人たちが集まってきました。すぐに体育館前の広場は賑やかな雰囲気になりました。かといってマスクを外すということはなく、皆節度をもって盛り上がり、責任を持った新たな社会の一員として振る舞うことができました。数年ぶりに会う友人たちは、男の子は皆たくましく、女の子は皆綺麗になっていました。話をしてみると性格や中身は昔と変わっていません。ふと南部中学校で過ごした楽しい日々を思い出したりもしました。

会場では、今年の新成人以外の方の入場は制限されていたため、ソーシャルディスタンスを保った上で新成人だけによる成人式が行われました。市長さんとお話されるときは真剣に話を聞き、後の抽選会では楽しく盛り上がる事が出来ました。

成人式が終わった後は本来であれば同窓会をブライオの会場で行う予定であり、会場も成人式の前から予約してはいましたが、飲食はコロナの感染拡大を助長してしまうのではないかと心配がやはり拭ききれなかったため、幹事たちによる度重なる話し合いのもと延期することに決定しました。多くの人が同窓会の延期を悲しんではいませんが、それでも皆受け入れてくれ、理解を示してくれたので、苦渋の決断ながらも同窓会の延期を決定した者の身としてはとても助かりました。コロナが収まり次第、最高の同窓会を開くために今からでも南中生たちで協力しあい、動いていきたいと思います。

私たちはすでに大人としての一歩を踏み出していますが、子供の頃の探求心、好奇心、そして同じ学び舎の友人たちと過ごした大切な日々を忘れることなく社会に出て成長を遂げていきたいと思います。

各年次の同窓会だよ

◆二十三回生(昭和四十二年年度)◆

「コロナ禍で」ルンコンパが中止になり、集まる機会が少なくなりました。昨春秋に有志で一度集まりました。高野者の仲間入りとなります。互いに気を付けるように話しました。

◆三十一回生(昭和五十二年年度)◆

五年ごとの同窓会を開催してきていますが、次年度の二〇二二年は還暦の年にもなり、節目の開催を計画していましたが、コロナの落ち着く状況までは実施できないとの見通しをもちています。

それまでの間、住所確認等のみを行ったり、リモートでの参加を試みるか、全く活動なしに単純に延期するかという選択肢になるかと予想しています。

次回の二〇二三年の総会には明るい話題として報告ができることを祈念しています。

◆六十九回生(平成二十七年年度)◆

一月十日に感染防止策を講じた上で、無事成人式が挙行され、一部の卒業生は顔をあわせることができました。しかし、恒例となっていた成人式直後の学年での同窓会はやむなく延期となりました。

今のごときお盆時期に延期という見通しで会の計画をしているのですが、「コロナの状況を見て」ということになると思われます。

役員会・総会の報告

令和三年一月十四日に役員会、常任委員会が開催され、令和元年度の事業報告と会計報告を行い、令和二年度の事業計画・予算案が審議されました。また、役員改選の年にあたるため、新役員案が提案されました。

本来ならば二月四日(木) 南部中学校図書室にて開催を予定されていた総会・年次代表者は新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止とし、紙上での開催いたしました。その結果、令和三年度の役員が決まりましたのでお知らせいたします。任期は令和五年三月三十一日までです。

同窓会から空気清浄機1台を学校に寄贈しました。



令和三年度役員・常任委員(敬称略)

役員

会長	長田阿騎弘	(四十六回生)	新任
副会長	伊藤 充洋	(四十七回生)	新任
副会長	篠原かほる	(三十一回生)	新任
書記	伊東 利典	(四十七回生)	新任
書記	西浦 友見	(四十二回生)	留任
書記	羽田野普仁	(四十六回生)	留任
会計	外山みち代	(三十三回生)	留任
常任委員(任期:令和四年三月三十一日まで)			
委員長	山本 一之	委員	山内 妙子
委員	鈴木 義章	委員	高柳 淳子
委員	原 嘉孝	委員	藤井 邦夫
委員	大木 健	委員	高橋 希依子

会計報告(令和元年度)

＜収入の部＞	
・繰越金	1,427,804円
・新入会員会費	162,400円
・雑収入(利息)	12円
合計	1,590,216円
＜支出の部＞	
・通信費	30,190円
・南十字星印刷費	10,780円
・南中へ寄贈(CDデッキ)	88,605円
・会議費	5,835円
・印刷用カートリッジ	80,100円
・印刷用インク	61,308円
・紙代	15,120円
合計	291,938円
(差引残高)	1,298,278円
同窓会会計	羽田野 普仁

コロナ禍のもと、工夫して南中祭を開催しました

体育祭(9月23日~25日)

例年9月に開催をしている南中祭(文化祭、体育祭)ですが、こちらも大きな変更がありました。

体育祭は平日に変更し、学年ごとの開催となりました。伝統のマスゲームも学年ごとに行われました。

3年生はフラッグを使った演技を披露し、参観していただいた保護者の皆さんから大きな拍手をいただきました。

各学年のマスゲームの様子はビデオ撮影し、11月に行われた授業参観の折に図書室で上映しました。写真は、校訓を形作った3年生のフィナーレです。



文化祭・合唱コンクール(10月28日)

ここ数年豊川市文化会館で全校が一同に介して行われていた合唱コンクールですが、今年は南中祭の一部として開催することとなりました。学年ごとの発表となり、南部中体育館で行われました。密を避け、制約の多い練習のなかで、当日は例年と変わらない素晴らしい歌声を披露しました。

保護者の皆様には観覧をご遠慮いただいたため、DVDを作成・販売し、ご覧いただくことになりました。



令和2年度 部活動報告

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全国大会につながる中小体連主催の夏の市内大会、東三大、県大会が中止となりました。また、吹奏楽部が毎年参加している夏のコンクールについても中止となりました。その後は各協会団体が独自に開催している大会に参加をしています。その結果をご報告いたします。

東海大会

<弓道部> 第15回東海地区中学生弓道大会男子団体の部優勝

12月20日に、名古屋の日本ガイスポーツ弓道場で開催された第15回東海地区中学生弓道大会男子団体の部において、みごと優勝を果たしました。

県大会はコロナの影響で市ごとのリモート大会で行われ、2位で東海大会出場権を獲得しました。8チームのトーナメントを勝ち進み、東海大会優勝の栄誉を勝ち取りました。

団体メンバー 伊東煌真 夏目獅瞳 糟谷勇斗 小泉亘槻

県大会

<サッカー部> AIFA U-15地区リーグサッカー大会優勝

U-14(14歳以下)の東三大で優勝し、県大会の出場権を得ていたのですが、大会が中止となり、夏の総体も中止になったなかで、愛知県サッカー協会が例年のU-15の県大会を開くことを決定しました。南部中学校は東三河地区の代表として選ばれ、8月の大会に臨みました。東三河全中学校のサッカー部の部員が7月に引退をしている中で、多くの人の思いを受けての大会の参加となりました。その結果、みごと優勝を果たしました。



1回戦 豊川南部 2-0 日進西中 準決勝 豊川南部 1-0 私立名古屋中
決勝 豊川南部 1-1 (PK3-2) 本城中学校

<陸上部>

第2回愛知県中学生新人陸上競技大会 男子走り幅跳び 第4位 与那城秀叶

東三大

<陸上部>

第64回東三河中学校新人陸上競技大会 男子走り幅跳び 第1位 与那城秀叶

第64回東三河中学校新人陸上競技大会 男子走り幅跳び 第3位 井上和真

<美術部>

夢デザイン・コンテスト ファッション部門 佳作 鈴木愛理

夢デザイン・コンテスト キャラクター部門 佳作 清水彩名

豊橋総合動植物公園 秋の写生大会 豊橋市教育委員会賞 内藤海月

<吹奏楽部>

令和2年度愛知県アンサンブルコンテスト東三河地区大会

金管八重奏銀賞・クラリネット七重奏銅賞・サクソフォン三重奏銀賞

令和2年度 南中短信

令和2年度は入学式の翌日から再び休校となり、5月18日から分散登校、25日から半日の登校、6月1日から通常時間割がスタートしました。

大森画伯の絵画展示される

昭和22年(1947年)から翌年まで本校に国語教師としてお勤めだった大森運夫画伯(1917-2016)の絵画3点が平成30年にご遺族から桜ヶ丘ミュージアムを通して本校に3点寄贈されました。令和2年5月に、展示が完了し、2棟1階の美術室前の廊下と、1棟2階の図書室前廊下で作品が鑑賞できます。どの作品も画伯晩年の大作で、衰えなかった作家の意欲が伺えます。学校にお越しの際は、ぜひご覧ください。



南部中最優秀校に選ばれる

南部中学校理科部の先生が、2019年度ソニー子ども科学教育プログラムの実践論文に応募し、全国的最優秀校に選ばれました。

令和2年11月2日に全国から参観者をお招きして子ども科学教育全国大会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会は中止となりました。研究の概要はソニー教育財団のホームページに掲載される予定です。



防災について学ぶ(1年)

例年全校生徒が体育館に集って開催をしている教育講演会ですが、全校で集まる集会の開催を控え、今年度は1年生を対象に開催しました。

講師に三重大学大学院工学研究科准教授の川口淳先生をお招きし、災害に備える心構えや具体的な準備を教えてくださいました。



充実の野外活動(2年)

当初8月に予定していた信州高遠青少年自然の家が新型コロナウイルスの影響で宿泊できなくなり、場所を県内の「旭高原少年自然の家」に変更し、10月に行いました。1泊の日程でしたが、生徒たちは高原の秋を満喫し、楽しい時間を過ごしました。



文化部門での活躍

第42回「全日本中学生水の作文コンクール」最優秀賞・農林水産大臣賞 河邊心那

第42回「全日本中学生水の作文コンクール」入選 大井祐架

第51回公募展 書道の部 川合夏流

第72回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 書道の部 佳作 福谷美波 小澤美遥

豊川市少年補導委員会 善行少年表彰 伊藤海玲

豊川市社明運動推進委員会 善行生徒表彰 佐々木望翔

豊川ライオンズクラブ第46回善行児童・生徒表彰 石黒天悠

笑顔満載の修学旅行(3年)

新型コロナウイルスの影響を受け、今年度の修学旅行は山梨・静岡方面に行き先を変更し、11月9日から11日の日程で実施しました。自然体験活動で洞窟探検をし、遊園地やサファリパークで楽しみました。笑顔溢れる3日間となり、クラスの絆が深まりました。